



[teeta]



財団法人 北海道埋蔵文化財センターだより
第9号

「テエタ」

「テエタ」アイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



森町 濁川左岸遺跡 住居跡調査状況（縄文時代後期）

●平成 14 年度の調査	2
●各遺跡の概要	4
●鶴川町宮戸 4 遺跡体験学習	7
●佐原真さんを偲んで	8

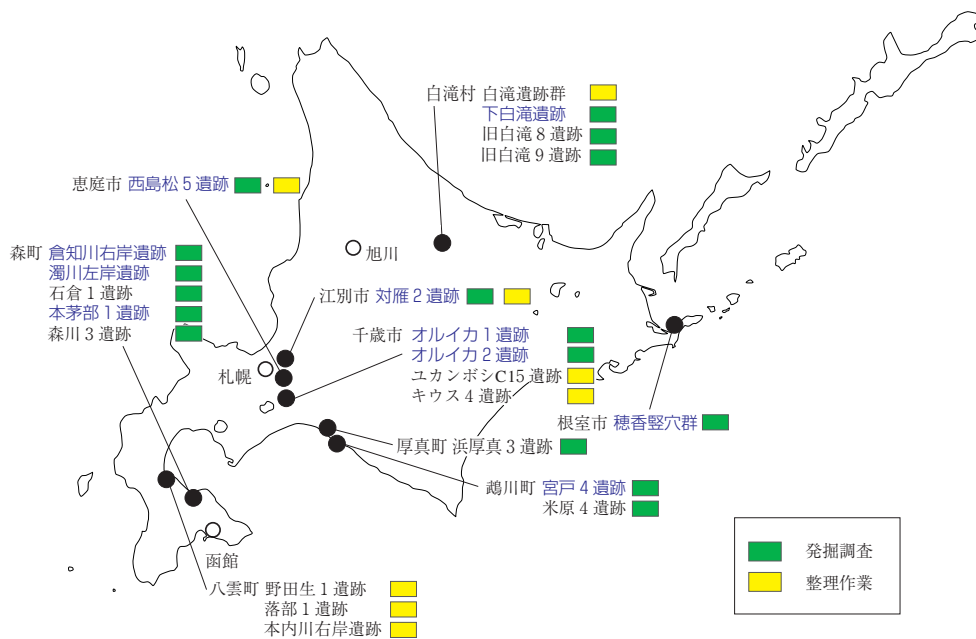


○平成 14 年度の調査

今年度は道内9市町村に所在する 14 遺跡の発掘調査ならびに6遺跡の整理作業が計画されています。このうち7遺跡は昨年度に続く調査です。現在発掘調査の途中ですが、各遺跡において多くの遺構、遺物が検出されています。ここでは調査途中の様子を紹介します。

北海道史略年表

本州の時代区分	年代 (西暦)	北海道の時代区分	H14.調査遺跡のおもな時期
明治～平成	A. D.1900	(近代・現代)	ユカンボシC 15・オリカ2 ユカンボシC 15 穂香壑穴群 西島松 5 対雁2・オリカ1 西島松5・倉知川右岸・野田生1 キウス4・濁川左岸 落部1・本内川右岸 本茅部1・濁川左岸 宮戸4 白滝遺跡群
江戸時代	A. D.1600	近世	
室町時代	A. D.1300	中世	
鎌倉時代	A. D.1200	擦文時代	
平安時代	A. D. 800		
奈良時代	A. D. 600	縄文時代	
古墳時代	A. D. 300		
弥生時代	A. D. 300		
縄文時代	B. C. 300	晩期	
	B. C.1000	後期	
	B. C.2000	中期	
	B. C.3000	前期	
	B. C.4000	早期	
	B. C.8000	旧石器時代	
旧石器時代	B. C.20000	旧石器時代	白滝遺跡群



平成 14 年度の調査遺跡 (平成 14 年 8 月 22 日時点 青ゴシック体は紹介遺跡)

平成 14 年度の発掘調査一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	時代
札幌開発建設部	一般国道 337号 新千歳空港関連工事	オルイカ 1	千歳市 	3,900	縄文晩期
		オルイカ 2		5,100	縄文後期
室蘭開発建設部	日高自動車道厚真 門別工事	宮戸 4	鶴川町 	4,700	縄文時代 擦文時代
		米原 4	鶴川町 	1,600	縄文時代
		浜厚真3	厚真町 	2,600	縄文時代
釧路開発建設部	一般国道 44号 根室道路工事	穂香堅穴群	根室市 	7,150	縄文時代 擦文時代
網走開発建設部	一般国道 450号 白滝丸瀬布道路工事	旧白滝 8	白滝村 	2,000	旧石器時代
		旧白滝 9	白滝村 	3,500	旧石器時代
		下白滝	白滝村 	2,250	縄文時代
		白滝遺跡群	白滝村 	整理作業	旧石器時代
石狩川開発建設部	石狩川改修対雁 築堤工事	対雁 2	江別市  	3,450 整理作業	縄文時代晩期 続縄文時代
日本道路公団	北海道縦貫自動車 道路建設工事	濁川左岸	森町 	3,190	縄文中期・後期
		石倉 1	森町 	1,753	縄文時代
		本茅部 1	森町 	2,330	縄文中期
		倉知川右岸	森町 	9,350	縄文中期・後期
		森川 3	森町 	2,200	
		野田生 1	八雲町 	整理作業	縄文後期
		落部 1	八雲町 	整理作業	縄文中期
		本内川右岸	八雲町 	整理作業	縄文中期
	北海道横断自動車 道路建設工事	キウス 4	千歳市 	整理作業	縄文後期
		ユカンボシ C15	千歳市 	整理作業	アイヌ文化期
札幌土木現業所	柏木川改修工事	西島松 5	恵庭市  	2,500 整理作業	縄文時代 擦文時代
合 計				57,573	

※表は、平成 14 年 8 月 22 日時点での各遺跡の調査予定状況を表す。



[teeta]

○各遺跡の概要

千歳市 オルイカ1遺跡

遺跡は、千歳市街から北東方向に約5.5km、国道337号線とオルイカ川の交差するところに位置しています。調査区は段丘部と斜面部に大きく分けられ、段丘部ではアイヌ文化期の家跡・鉄器等が確認されています。一方、縄文時代の遺構・遺物は、調査区のほぼ全体から確認され、後期・晩期のものが多くみられます。主な遺構としては、土器の破片で囲った炉をもつ後期の竪穴住居跡や、晩期頃と考えられる道跡などが確認されています。



竪穴住居跡遺物出土状況

千歳市 オルイカ2遺跡

遺跡は、オルイカ1遺跡の北東約400m、馬追丘陵裾部にあります。樽前a降下軽石（1739年）の下から、アイヌ文化期の家（アイヌ語で「チセ」）や倉庫（「プ」）の跡が少なくとも7軒検出されています。家（チセ）跡には炉があり、その周囲から漁または編物の際に使う錘と考えられる石や、刀子などの鉄製品が出土しています。炉には焼土と灰が重なって堆積しています。

このほか、樽前c降下軽石（約2,300年前）の上下からは、縄文時代晩期の土器や石器が出土しています。



家跡調査状況（アイヌ文化期）

鶴川町 宮戸4遺跡

遺跡は、鶴川町を流れるイモツベ川の左岸に立地しています。7月現在、町道をはさんだ台地部分（標高20～25m）と低地部分（標高15～20m）を調査しています。

台地部分からは、縄文時代後期前葉のタブコブ式期（約3,800年前）の土器囲い炉を伴う住居跡が1軒検出されました。また、シカを狩るための落とし穴と考えられるTピットが沢筋に6基見つかっています。遺物包含層からは縄文時代早期～後期と擦文時代のもものが出土しています。その中で最も多いものが、縄文時代前期前葉の綱文式期（約6,000年前）に属する遺物です。

低地部分からはイモツベ川の旧河道を検出したほか、蛇紋岩製と考えられる勾玉が1点出土しました。



調査遠景



竪穴住居跡調査状況（擦文時代）

ねむろし ほにおいたてあなぐん
根室市 穂香竪穴群

遺跡は、根室市中心部から南西へ約5km、根室湾に面した台地状にあります。調査2年目の今年度は、縄文時代中期から後期にかけて、竪穴住居跡1軒、土坑5基、盛土遺構1ヵ所、剥片集中1ヵ所と擦文時代終わり頃の竪穴住居跡11軒を調査しています。盛土遺構からは、焼土や遺物が検出されていますが、全体の範囲はまだ明らかになっていません。擦文時代の住居跡はカマドを持つものと持たないものがあり、出土遺物はほとんどありません。遺構以外では、縄文・擦文時代のほか、少量の続縄文時代の遺物も出土しています。



包含層調査状況

しらたきむら しもらたきいせき
白滝村 下白滝遺跡

遺跡は、白滝市街の北東約9.5km、村名の由来となった「白滝」の下流500m、湧別川左岸の標高約270mの河岸段丘上に位置しています。遺跡全体は耕作による攪乱が著しく、遺構は検出されませんでした。白滝村では出土が稀な土器とともに石器類が出土しました。土器はわずかですが縄文時代中期および晩期とみられる破片です。石器は石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパーなどの定形的なもののほか、製作途中とみられる調整のある剥片や多量の剥片・破片が出土しています。

これらのことから、縄文時代の石器製作跡であると考えられます。



調査遠景

えべつし ついかり いせき
江別市 対雁2遺跡

遺跡は、JR江別駅から北西に約4km、石狩川左岸の河川敷緑地内にあり旧豊平川との合流点よりも上流側になります。時期は縄文時代晩期後葉～続縄文時代にあたります。今年で4年目の調査になりますが、これまでに遺構（土坑・焼土など）や遺物（土器・石器など）が多く見つかっています。

今年度の調査では焼土（焼き火の跡）が多く見つかっていて、これまでに約100ヵ所の調査を行いました。

写真は遺跡の調査風景です。奥に見えるのが石狩川でその上流側から遺跡を撮影しています。



[teeta]

もりまち くらちがわうがんにせき
森町 倉知川右岸遺跡

遺跡は、森町の市街地から山側へ約2 km、南西側の山地から続く緩斜面の中腹あたりの、倉知川と無名の沢により区切られた地区にあります。遺物や遺構は両側の沢沿いに集中しており、倉知川側では縄文時代後期後半が、無名沢側では縄文時代中期末～後期前半が中心になります。また倉知川側では、厚さ1mにもなる「堤」状の堆積物が検出され、縄文時代後期後半から12世紀頃までの間の土石流堆積物の可能性が高いことがわかりました。



調査遠景

もりまち にこりかわさぎがんにせき
森町 濁川左岸遺跡

遺跡は、森町北部の「石倉」地区を流れる、濁川の左岸段丘上に位置し、標高は37～45 mです。調査は昨年度からの継続で、今年度の調査では、竪穴住居跡が4軒、土壇15基、焼土4ヵ所、小ピット1基が発見されています。遺物は土器・石器のほか、ヒスイ製や着色の可能性がある蛇紋岩製の玉、ドーナツ形の土製品などが出土しています。主な時代は今から約4,000年前の縄文時代中期後半から後期初頭頃です。



竪穴住居跡 NH-18 調査状況（縄文時代後期）

もりまち ほんかやべ いせき
森町 本茅部1遺跡

遺跡は、海岸線から700m程度入った標高約80mの台地上に位置しています。付近の川まで比高差が50mもあります。水の確保が難しかったためか、生活の痕跡は少なく、遺構は縄文時代中期と考えられる土壇が7基検出されたのみです。その内の1基からは土器が1個体ほぼ正立した状態で見つかりました。遺物も縄文時代中期のものが多く、わずかに後期、晩期の土器も出土しています。調査は7月15日で終了しました。



土壇P-2の土層断面（縄文時代中期）



竪穴住居跡調査状況（擦文時代）

恵庭市 西島松5遺跡

遺跡は、恵庭市の西側、柏木川とキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約25mの低い台地上に位置します。縄文時代早期から擦文時代にわたる約6,000年間の人々の生活した痕跡が残っています。調査は平成12年から継続しており、今年で3年目です。遺物は縄文時代後期後葉が主体ですが、遺構では擦文時代の住居跡がキトウシュメンナイ川沿いに並んで検出されています。

○鶴川町宮戸4遺跡体験発掘

6月26日（水）、抜けるような青空が広がる絶好の発掘日和。札幌市立美園小学校の6年生約110名が引率の先生方とともに宮戸4遺跡現場を訪れました。修学旅行の研修の一環で、現場での発掘の実際と遺物洗いを体験しました。発掘に先立って調査員から遺跡全体の説明を受け、調査中の土器囲いやTピットを見学しました。その後それぞれが持参の「歯ブラシ」で水洗作業。現場では何も掘り当てられなかった生徒たちも遺物を手に取ることができました。また、前日、蛇紋岩製の「勾玉」が出土したばかりでしたので、出土した土器・石器とともに早速お披露目。「どうやって磨いたの？何で穴を開けるの？」と興味津々の様子でした。



体験発掘の様子



体験発掘に参加した美園小学校の6年生

○佐原真さんを偲んで

平成14年(2002年)7月10日、前国立歴史民俗博物館長の佐原真さんが膀胱癌のためお亡くなりになりました。享年70歳でした。

佐原さんは、NHK教育テレビの考古学講座などにも出演されていたので、考古学や文化財の分野のみならず一般の人々にもなじみのある方でした。佐原さんは、考古学をやさしくすることに特に熱心でした。堅苦しい専門用語をはね除けながら語る遺跡の話は、いつも人を引きつけて離しませんでした。

道教委でも、平成6年2月に「大むかしと現代をむすぶ」と題して講演をお願いしたことがあります。当時は、道立埋蔵文化財センターの構想を練っていたときです。埋蔵文化財について、著名な方から話していただければ道民の理解が得られるのではないか、とひそかに期待しながらお願いしました。狙いは的中でした。多くの人が熱心に聞いてくれました。

近年、佐原さんには、網走市のモヨロ貝塚や恵庭市のカリンバ3遺跡などの整備委員もお願いしていました。地元では、佐原さんの熱心な指導をとっても心強く感じていました。奇しくもお亡くなりになった日には、道内委員がカリンバ3遺跡で小委員会を開いておりました。これからは佐原さんからご指導いただいたことからも確かめながら、北海道の埋蔵文化財の保護にしっかりと生かしていきたいと思っております。

感謝そして合掌。

(常務理事・第1調査部長 畑 宏明)

◆人事異動◆

○選任

理事長 森重 楯一 (7月1日付)
常務理事兼第1調査部長 畑 宏明 (6月1日付)

○退職

理事長 大澤 満 (6月30日付)
総務部業務課長 村山 誠己 (3月31日付)

○採用

業務課長 小鹿 正芳 (4月1日付)

○転入

総務部長 下村 一久 北海道教育庁文化課主幹から (4月1日付)
第1調査部長 畑 宏明 北海道教育庁文化課参事から (4月1日付)

○昇格

第2調査部長 西田 茂 第1調査部第2調査課長から (4月1日付)

○転出

柳瀬 茂樹(総務部長) 北海道立足寄少年自然の家所長 (4月1日付)
大沼 忠春(第1調査部長兼第2調査部長)
北海道教育庁文化課主幹 (4月1日付)



◆交通案内◆

- ・ < JR > JR 新千歳空港駅から JR 札幌駅で乗り換え、JR 大麻駅から徒歩約 20 分
- ・ < JR + バス > JR 新千歳空港駅から JR 新札幌駅下車、新さっぽろバスターミナル発
 - ・ JR バス・夕鉄バス (文教通西循環線) に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩 5 分
 - ・ JR バス・夕鉄バス (江別方面行き) に乗車「道浅井学園大札幌学院大前」下車、徒歩 15 分
- ・ < タクシー > JR 新札幌駅から約 13 分

編集・発行/財団法人 北海道埋蔵文化財センター

平成 14 年 9 月 30 日発行

〒069-0832 北海道江別市西野幌 685 番地 1 TEL011-386-3231 FAX011-386-3238

[E-mail] mail@domaibun.or.jp [URL] http://www.domaibun.or.jp/